

平成 26 年 3 月 18 日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会  
第 10 回理事会議事録

日 時	平成 26 年 3 月 17 日 13:20~16:35
場 所	産業技術総合研究所 臨海副都心センター 本館第一会議室 (東京都江東区青海 2-3-26 産総研臨海副都心センター本館 4 階)
出席者	(本人出席) 浅井理事長、清水副理事長、油谷理事、川島理事、木下(聖子)理事、 藤理事、中井理事、松田理事、水野理事、岩崎理事、大林理事、小森理事、 関嶋理事、八谷理事、ホートン理事 (表決書提出) 西川理事、奥村理事、瀬々理事 以上 18 名出席 (オブザーバ) 萩島新理事、木下(賢吾)新理事／2014 年会長／東北地域部会長、 五斗新理事、白井新理事／認定試験委員長、中尾新理事、(門田新理事、渋谷新理事 は表決書提出)、水谷(新事務局)、坂井(事務局、書記)

議長 浅井理事長 (定款第 35 条による)

配布資料

- ・ 議案書
- ・ 別紙 1(第一号議案 平成 25 年度事業報告および収支決算の承認 関係資料)
  - 別紙 1-1 平成 25 年度事業報告書 別紙 1-2 平成 25 年度財産目録
  - 別紙 1-3 平成 25 年度貸借対照表 别紙 1-4 平成 25 年度活動計算書
  - 別紙 1-5 平成 25 年度計算書類の注記 别紙 1-6 平成 25 年度監査報告書
  - 別紙 1-7 監事の監査チェックリスト 别紙 1-8 研究会・地域部会収支
- ・ 別紙 2(第二号議案 JSBi2013 年会報告 関係資料)
  - 別紙 2-1 JSBi2013 年会会計報告書 别紙 2-2 JSBi2013 年会会計監査報告書
- ・ 別紙 3(第三号議案 平成 25 年度認定試験報告および平成 26 年度実施計画 関係資料)
  - 別紙 3 平成 25 年度バイオインフォマティクス技術者認定試験事業報告
- ・ 別紙 5(第五号議案 平成 26 年度事業計画および収支予算の承認 関係資料)
  - 別紙 5-1 平成 26 年度事業計画(案) 别紙 5-2 平成 26 年度予算(案)
  - 別紙 5-3 JSBi 年間予定表(事務局マター)
- ・ 別紙 6(第六号議案 生命医薬情報学連合大会 2014 年大会(JSBi2014 年会)関係資料)
  - 別紙 6-1 開催趣意書 别紙 6-2 プログラム案
  - 別紙 6-3 連合大会ローカルコミッティ議事録(5 回分)
- ・ 別紙 7(第七号議案 GIW / ISCB-Asia 2014 関係資料)
  - 別紙 7-1 GIW/ISCB-Asia2014 概要(プログラム、フロアプラン、スケジュール、フライヤー)
  - 別紙 7-2 GIW Special Issue に関する BioMed Central との契約について
  - 別紙 7-3 Program Committee member list
- ・ 別紙 9(第九号議案 種々のサポートのあり方 関係資料)
  - 別紙 9-1 トラベルアワード(平成 27 年度に予算確保するかどうか、アワード規定を決めるか)
  - 別紙 9-2 國際会議オーガナイズ補助(公募研究会の一環で読むか、募集期間をどうするか)

- 別紙 10(第十号議案 「JSBi 講習会」 関係資料) JSBi 講習会案
- 別紙 11(第十一号議案 JSBi 事務機能の外注化の検討について 関係資料)
- 別紙 WG 議論と現状を踏まえた、論点のまとめ

## 議事

### 第一号議案 平成 25 年度事業報告および収支決算の承認

承認された。

議論:

- 「監事の監査チェックリスト」の位置づけについて。法的、対外的に必須のものではなく、法人業務の向上のため自主的・内部的に行っているものであり、チェックリストは認定特定非営利活動法人NPO会計税務専門家ネットワークのものを使用している旨、事務局より説明があった。
- 来年は、前年度と比較できる資料を出すことになった。

### 第二号議案 JSBi2013 年会報告

2013 年年会長(中井理事)より報告があり、承認された。

議論:

- 大幅な黒字となったことについて議論された。
- 主な原因は、スポンサーが順調についたこと、外注費や印刷費などを節約したこと、本来の JSBi らしい運営(CBI に合わせて高額の謝金を払うことがなかったなど)が行われたこと、と分析された。
- スポンサーは、JSBi と CBI で分けているが、CBI と組んだから多数のスポンサーがついたのかどうかは不明。ただし民間スポンサーは少なかったと指摘された。
- 参加人数は、JSBi だけみると、CBI との合同開催時と JSBi 単独開催時で差はないとした。

### 第三号議案 平成 25 年度認定試験報告および平成 26 年度実施計画(白井)

別紙資料に基づき平成 25 年度認定試験委員長(白井新理事)より報告があり、承認された。

今期はじめて事務局担当に人件費を支出したが、この支出がちょうど学会からの支出額に相当し、それ以外は受験料収入でほぼ賄ったこと、合格率の算出方法などが報告された。

議論:

(昨年度分析と今年度計画について)

- 受験料引下げと参加人数増の関連はおそらくないと思われる。
- 受験料引下げによる収入減は約 3 万円であり赤字への影響は小さい。
- 受験者数は、過去の受験者数の中央値付近であり、とくに増えたとはいえない。
- 広告費をかけていないが、受験者数に影響はなかったと思われる。
- 受験者の構成は、社会人 2:学生 1 で、前年の社会人:学生比と逆転した。
- TOEIC 試験の日程と重ならないよう、試験日を土曜日にする案がある。
- 東北一北海道、名古屋一長浜はそれぞれペアで隔年開催としている。名古屋と長浜は特例で両方とも実施したが東北一北海道は従来通り交互開催とするので、26 年度は、東北ではなく北海道である。

(将来計画、WG での議論について)

- 認定試験 WG で、認定試験を継続するかどうかの議論があつたが、WG では決定権はないので理事会に上げたきり議論が止まっている。継続可否が決まらないと、次の人に引き継ぎしにくいでなんと

かしないといけない。(木下賢、藤、白井)

- ・ 繼続可否の議論が続いていたので、学会としてどうしたいか決めるのに「事業赤字」が影響するのを避けたいと考えた。(白井)
- ・ 繼続しないにしても来年度いきなりやめるのは無理だということはWGでも提案している。ただずるずると続けるべきではないと言っている。(川島) 来年やめるのか、10年続けるのか、方向性のコンセンサスがあるのが望ましい。(八谷)
- ・ 実施体制については、今年は長浜で事務局を雇用し、実行委員は誰でもどこででもできるという形を作った。これからも認定試験委員は、肃々と運営し、改革も少しあはやっていく。次年度の委員長は前年度委員長が指名するという慣例になっているのだが、JSBiとして中長期的にどうしていきたいかが反映されるよう、理事会で議論してほしい。(白井)
- ・ 認定試験に限らず、年会、研究会にも共通する問題。JSBiとして中長期のビジョンを積み上げていかないと。(木下賢)

(その他)

- ！ 積み残しの理事会マターをきちんと継続する仕組みが必要である。継続的に理事会で話し合うべき件をケアし、常に、懸案事項をいつまでに決めるかフォローしていく必要がある。

#### 第四号議案 幹事の選任

議案書通り承認された。承認された幹事一覧は以下のとおり。

- |                    |  |
|--------------------|--|
| 年会担当(2015年)        | 五斗進(京都大学化学研究所)                         |
| 男女共同参画             | 油谷幸代(産業技術総合研究所生命情報工学研究センター)            |
| ニュースレター            | 岩崎涉(東京大学大気海洋研究所)                       |
| Genome Informatics | 佐藤賢二(金沢大学理工研究域電子情報学系)                  |
| 認定試験               | 白井剛(長浜バイオ大学バイオサイエンス学部コンピュータバイオサイエンス学科) |
| ISCB 対応            | ポール・ホートン(産業技術総合研究所生命情報工学研究センター)        |

議論:

(幹事の構成について)

- ！ 2014年年会担当も幹事に加わるべきである。→ 追ってメール審議で決議することになった。

(年会について)

- ・ 2015年年会は連合大会ではなくJSBi単独で行う方向。ただしオミックス医療研究会の態度が明確でないようなので引き続き情報収集する。少なくともCBIとは一緒にやらない。CBI側の意向も同じで一緒にやる気はない。(浅井、中井、岩崎、荻島、木下賢)
- ・ 参加者数は、連合大会だと400~500人は集まるのでスポンサーも喜ぶ。単独開催では200人以下程度しか集まらない。JSBiのブランド力低下を危惧する。規模感、オーラルセッションはいくつあればよいかなど、中長期的な視点での議論をしてほしい。(木下賢)
- ・ 絶えず見直し続けたい。他学会との合同も検討したい。いろいろな学会と連携するのもよい。年会は早めに責任者を決めて動くのがよいだろう。(浅井)
- ！ 2016年年会担当は、開催地・他学会との連携も視野に入れ、次回年会中の理事会で決めたい。

#### 第十一号議案 JSBi事務機能の外注化の検討について

第五号議案「平成26年度予算案」のなかに事務局委託費が積まれていることから、第五号議案の審議に入

る前に、事務局交代の発表と、新事務局担当者(水谷健太郎)紹介、第十一号議案の審議を行った。

議論:

- ・ 事務局が突然崩れてしまうのは怖い。(川島 他)
- ・ 事務局が理事長のボランティア頼みだったり、1人におんぶにだっこなのはよくない。(岩崎、木下賢)
- ・ 進化学会はクバプロに外注している。担当者によって業務クオリティが違う、費用は会員数で決まる部分があるので会員増を躊躇する場面がある、などの短所がある。(川島)
- ・ 外注先の経営状況にも気を配る必要が出てくるので難しい面もある。(関嶋)
- ・ 外注するなら 26 年度予算に積まれた年間 60 万円ではとてもできない。事務局の強化と安定のためにもつとかけてもいいのではないか。(木下賢)
- ・ 運営している人の近くの人に頼むのもよいが、運営が止まらない体制づくりも望まれる。(関嶋)
- ・ 短期的には JSBi が困らないよう、次期 CBRC も協力する。(ホートン)
- ・ 長期的には、目指す学会規模とのトレードオフ(会長がやりくりできる程度の小規模 vs 大きな組織)の問題になる。(ホートン)

**第五号議案 平成 26 年度事業計画および収支予算の承認**

承認された。

**第六号議案 生命医薬情報学連合大会 2014 年大会(JSBi2014 年会)について**

別紙資料に基づき 2014 年年会長(木下賢吾新理事)より報告があり、その内容が承認された。

議論:

(連合大会のあり方について)

- ・ 生命医薬情報学連合大会の命名意図は、2012 年の有田年会長が、3 学会の融合を目指し学会別色が出ないようにしたことによる。ところが、学会色がなかったことで、当事者意識を失い参加しなかった会員(とくに CBI で)が多数いた。運営もうまくいかなかつたので、2013 年は 3 学会が、同時に、しかし別々に開催している形になった。(中井)
- ・ 連合大会の内容決定権は誰にあるのか。ローカルコミッティの専断 vs 各学会の承認?(木下賢)  
各学会の承認プロセスには時間がかかりすぎるのでローカルで決めてもらってよい。ただし連合大会であっても JSBi 年会なのでよく考えてほしい。(浅井)

(JSBi 年会のあり方について)

- ・ 過去の経緯を積み重ねないといけないと思う。年会は学会の一番大きなアウトプットだ。(木下賢)
- ・ これまでオープンバイオをやってきた経験から、上のほうで引き継ぎがないのは問題。(中尾)
- ・ 使用言語についても意見が割れている。年会長が好きなようにやるというのが JSBi カラーでは。(中井)
- ・ 参加者が、わざわざ選んで参加してくれるような何かを提供しないといけないのではないか。(木下賢)

(今年の大会の方針、プログラムについて)

- ・ いわゆる JSBi のオーラルセッションが 1 セッションしかないのは少なすぎる。言語はどうするか。
- ・ 国際会議にチャレンジする人をセレクションするセッションはどこに置くか。トラベルアワードの予算がほしい。
- ・ JSBi 枠 4 枠は大林理事(ローカルコミッティ委員)に一任する。1.5 をオーラル、0.5 を受賞講演?
- ・ 市民公開セッションについて、3 日目に 2 セッションを予定。1 つは「プラチナデータ」で講師はローカ

ルコミッティメンバーが務める。もう1つは個人ゲノム時代の倫理関連セッション。

- ・企業のスポンサーardセッションの裏に人が集まるセッションを実施するのは避けるように。今後のスポンサー獲得のため。
- ・公募セッションがあるべき。会員から募集すれば必ず応募はある。当事者意識も高められる。
- ・ポスターセッションが遅い時間だが、昨年までのよだ細切れでなくまとまった時間を見るため。かつ、懇親会をしない代わりにミキサーとして活用する企画。
- ・3日目に excursion として東北メガバンク見学ツアーを企画。連合大会長(山本)の意向もあり、観光など遊ぶ時間を入れたい。不参加者にも配慮。
- ・講習会も入れたい。

#### 第十号議案 「JSBi 講習会」について

年会(連合大会)の中で講習会を行いたいという意向があり、提案者の八谷理事より、別紙資料に基づき企画意図の説明と議論が行われた。10月の大会での実施案と、NBDCとの連携など今後の方針について話し合われた。実施主体、予算確保、認定試験との関係などが懸案事項と考えられた。

議論:

- ・(NBDCとの連携について現状の報告) NBDC はバイオインフォマティクスの人材育成も行うので、その時々の不足人材育成で動いている。現在は NGS 関連。カリキュラムを作ったが今年は予算がつかなかつた。しかし夏ごろに試験的に講義を始める予定。JST との打ち合わせの結果、JSBi が講習会をするなら NBDC は協力することになっている。(藤)
- ・東北大学メディカル・メガバンク医学部学生が連合大会に参加することを期待し、バイオインフォマティクス入門講習会をやってほしいというリクエストがある。(八谷、木下賢)
- ・CBI 学会は、たとえば SNP が注目されたときに企業向けに研究会をするなど、流行を追ってアピールしている。JSBi で講習会ができれば JSBi のプレゼンス向上に役立つ。誰がやるのか。(藤)
- ・長期的に実施することを考えると、認定試験と同じ、次の担当者に引き継ぐときに問題になりそうな危惧がある。予算が必要なら請求すればよい。(川島)
- ・まずは 10 月の大会で試験的にやってみる段階だと思う。連合大会予算が赤字になつたら理事会に助けてほしい。0 円でできなければ計上したい。(八谷)
- ・講習会の議論はどこでするべきか? 連合大会ローカルコミュニティ vs 理事会?
- ・公募研究会に出す? 認定試験との関連、関係は?

#### 第七号議案 GIW / ISCB-Asia 2014 について(浅井・ホートン)

Co-chair の浅井理事長とホートン理事より配布資料に基づいて準備状況の報告があった。GIW と年会の関係、Genome Informatics 誌について、Proceeding の掲載論文、ジャーナルとの契約についてが整理され、承認された。

議論:

(GIW と年会の関係)

- ・ GIW は AASBi のオフィシャル conference。今年は AASBi の当番が日本なので GIW 幹事を JSBi が行うという位置づけ。(松田)

(Proceeding の論文掲載について)

- ・ GIW に採択されると、PC が 3 誌のどれかに割り振る。BMC は systems biology だけでなく genomics

にも掲載してもらうようとする。Bioinformatics 誌も、特別号にはならないが掲載される可能性がある。  
投稿料は著者が各自で払う。

(Genome Informatics について)

- かつては GIW の論文誌だったが、2010 年に中国で GIW を開催したとき、IF がついているジャーナルに Proceeding が載らないと意味がないと主張され、GIW との関係が切れてしまった。いまは JSBi 年会の発表から選抜されたものが掲載されている。(松田)

### 第八号議案 GIW2015 の InCoB との共催案について

ホートン理事より、InCoB(APBioNet 主催)の Christian Schöenbach と Shoba Ranganathan の 2 人と、2015 年の InCoB と GIW を日本(東京)で 9 月に共催することを検討中だと報告された。

経緯説明と議論:

- GIW2014 の東京開催が決まる前にホートン理事側から APBioNet に打診した。
- 2014 年は GIW と ISCB-Asia を共催するが、2015 年は ISCB-Asia は加えない方針。
- GIW は 2 年連続日本開催でいいのかという点について; GIW にとって日本は特別なので、よいとのこと。なお GIW2015 は上海が立候補しているが、InCoB との共催であれば上海は 2016 年に譲ること。GIW を日本(JSBi)に取り戻すよいきっかけ。
- GIW と InCoB の共同開催実績はない。以前検討したが、流れてしまったことがある。(その経緯は APBioNet 側と AASBi の Limsoon 氏(シンガポール)の説明が食い違っており、どちらが断ったのか真相は不明。しこりが残っているもよう。)
- しかし GIW を 2 年続けてやるメリットがわからない。なぜそこまでがんばらなければならないか。

(開催時期について)

- GIW は例年 12 月開催なので 9 月は早い印象。InCoB は 2014 年は 7/31~8/2 なので 9 月で OK。JSBi が GIW/InCoB2015 に前向きなら開催時期の交渉を行ってもよい。

(JSBi2015 との関係について)

- JSBi2015 は五斗年会長のもと京都で開催するが、これは GIW/InCoB とは別に開催する方向。
- JSBi 年会とのリンクの検討は急がないといけない。

(ISCB との関係、国際関係について)

- 将来的には ISCB-Asia をなくしたい。(ISCB-USA や ISCB-Euro がないように、いずれは米・欧・アジアの三極で ISMB が開催されるようになるのを目指す?)
- 2018 年か 2020 年に ISMB を日本に誘致しようとしている。アジア圏初 ISMB は日本でやりたい。
- 日本はどういう立場を目指すか考える。

### 第九号議案 種々のサポートのあり方について

本件は JSBi の中長期ビジョンと関係するが、その議論が不十分であること、また定刻を過ぎたため、次回以降に持ち越すことになった。

審議は以上、予定時刻を過ぎ 16:37 に理事会は終了した。

### 議事録署名人の選定

油谷理事と岩崎理事が指名され、全員が承諾した。

